

# 日本文化芸術祭・日本美術展

## －招待出展報告－

井生 文隆・水谷 由美子・松尾 量子

Japanese Culture and Industry Fair in Inner-Mongolia 2000  
－Report of Japanese Arts and Design Exhibition－

Fumitaka IO, Yumiko MIZUTANI and Ryoko MATSUO

### 1.概要

- 中国内モンゴル自治区日本文化芸術祭  
(Japanese Culture and Industry Fair in Inner-Mongolia 2000)  
日本美術展  
(Japanese Arts and Design Exhibition)

出展：井生文隆

「時の恵み」のデザイン(樽材による机上文具)  
水谷由美子・松尾量子  
服飾デザインと着物のリサイクル  
(打ち掛けからウエディング・ドレスへの変容)

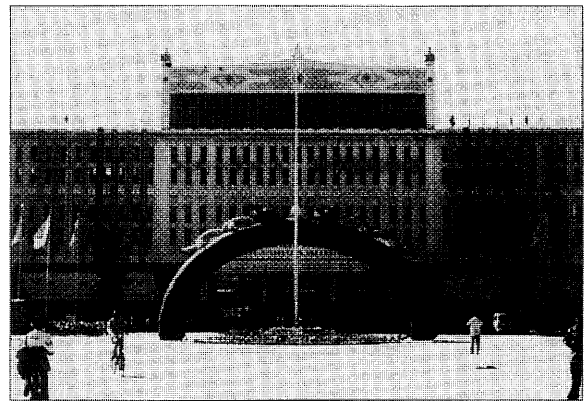
趣旨：21世紀は、国家間・民族間での交流と協力関係が、いっそう活発化する国際社会になると言われている。内モンゴル自治区は、自らの地域の国際化及び近隣諸国との交流を促進する為、また文化交流により、相互理解・友好親善を深め、自然と文化資源などの共有を目指し互いに助け合い発展していくことを期待し企画開催された。

場所：内モンゴル自治区首府呼和浩特(フフホト)市  
内モンゴル自治区展覽センター

期間：2000年9月2日(土)～10日(日)

主催：中国内モンゴル自治区政治協商会議  
内モンゴル自治区文化庁  
内モンゴル自治区政府観光局  
呼和浩特市人民政府  
日本文化祭実行委員会

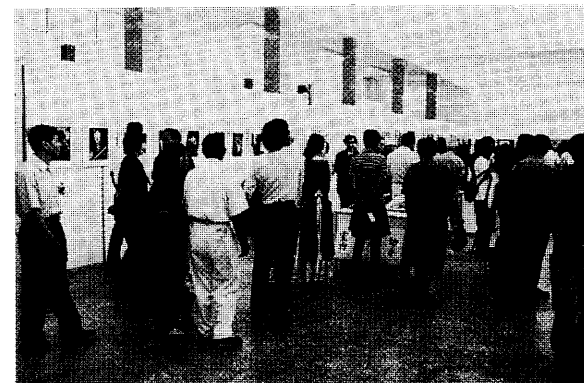
協力：内モンゴル自治区教育委員会  
内モンゴル自治区対外経済貿易庁  
内モンゴル自治区錫林郭勒盟政治協商会議  
内モンゴル自治区電視台



内モンゴル自治区首府・呼和浩特(フフホト)市



オープニング・セレモニー



日本美術展覧会場内

後援：内モンゴル自治人民政府  
 中華人民共和国文化部  
 日本通産省  
 日本外務省  
 毎日新聞社  
 毎日放送  
 など

2. 「時の恵み」のデザイン

- 樽材による机上文具のデザイン -

Theme : Design about "The Blessings of Time"

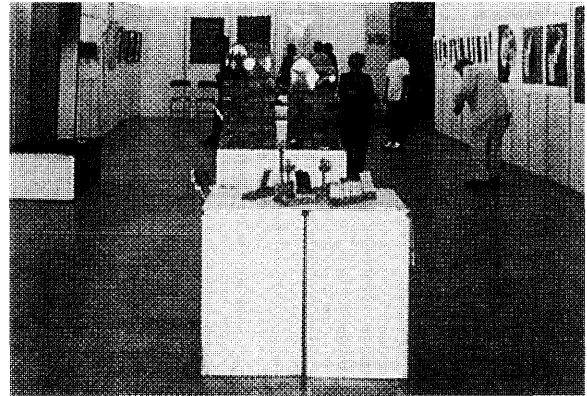
- Design of Articles on The Desk by Barrel Woods -

大量生産時代の終焉とも言われ、「メーカーは使い手が見えるもの作り」、「ユーザーは作り手の見えるもの」が求められてる。また、「人に優しいものづくり」、「地球に優しいものづくり」と叫ばれているが、「つくる=破壊」ということを認識して「地球を長持ちさせるデザイン」を、真剣、真摯に追究していかねばならない。何年も長い間、色褪せずに人々を魅了し、愛されている魅力について、デザインの本質を探ることが、21世紀に向けてのスタンスであると考ええる。

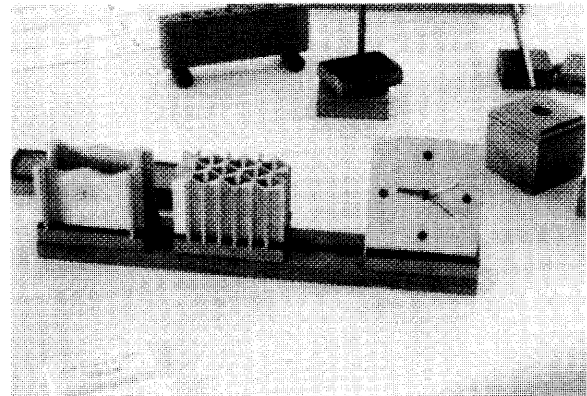
ウイスキーの熟成に用いられる樽は、良質の北米産のホワイトオークで作られていて、樽の内部を炎で焦がし、ウイスキーを仕込む作業によって、ウイスキーは琥珀の色味を帯びる。そして約50年でウイスキーの樽材としての寿命を終える。使命を果たしたウイスキー樽材を、表面（金具の跡）や内面の焦がしたテクスチャなど、「時の恵み」をそのまま生かした表現や素材の持つ暖かみを活かし、書斎机を飾るデザインにリサイクルした。

「森のとき」を紡ぎ、「樽のとき」、無色透明のウイスキーの原酒が、樽に貯蔵され、永い年月と共に徐々に木の持つエキスが浸み出し、琥珀の色、まろやかな味、深みのある香りを培い育んだホワイト・オークの樽材を使い、エイジング、熟成、歴史という言葉に相応しい『机上のとき』を重ねるデスクトップ文房具を提案した。

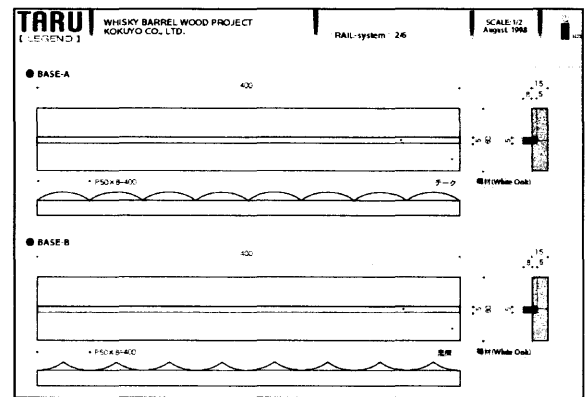
これらの作品が、中国内モンゴル自治区日本文化芸術祭（Japanese Culture and Industry Fair in Inner-Mongolia 2000）における、日本美術展（Japanese Arts and Design Exhibition）に、内モンゴル自治区招待作品として展示され、内モンゴル自治区人民政府永久収蔵作品に選定された。



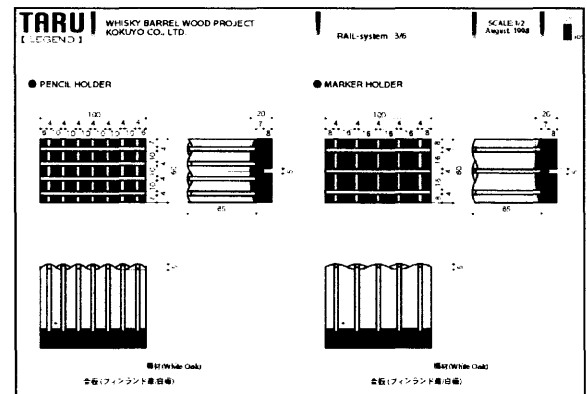
内モンゴル自治区展覧センター



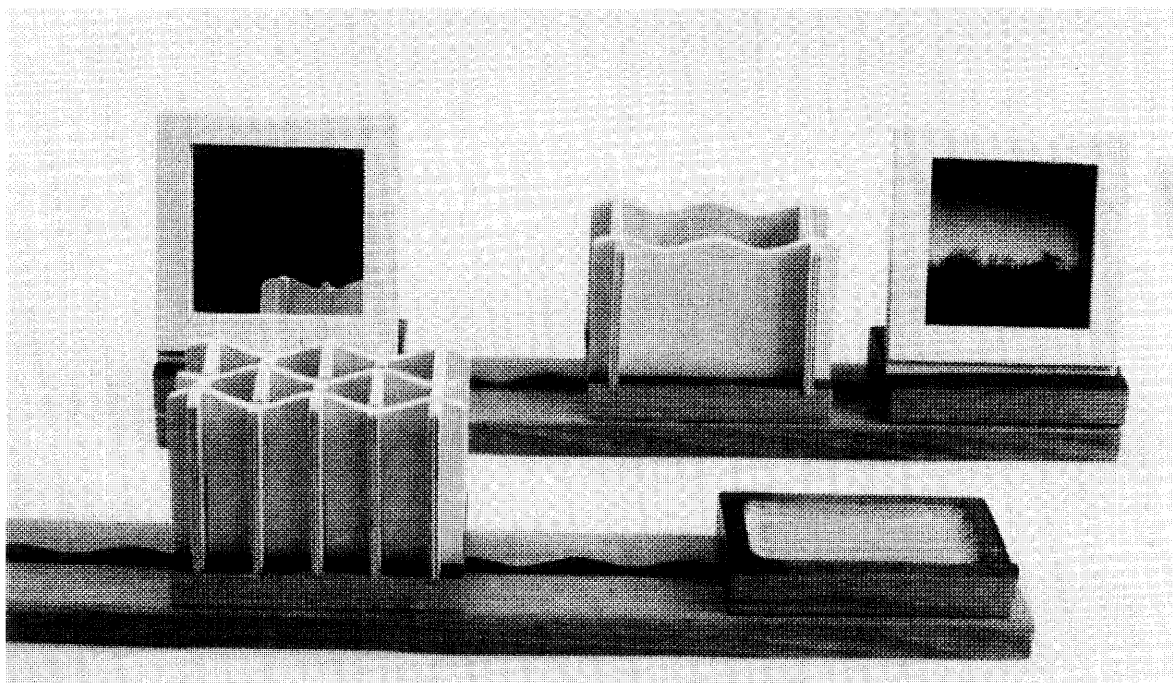
樽材による机上文具のデザイン



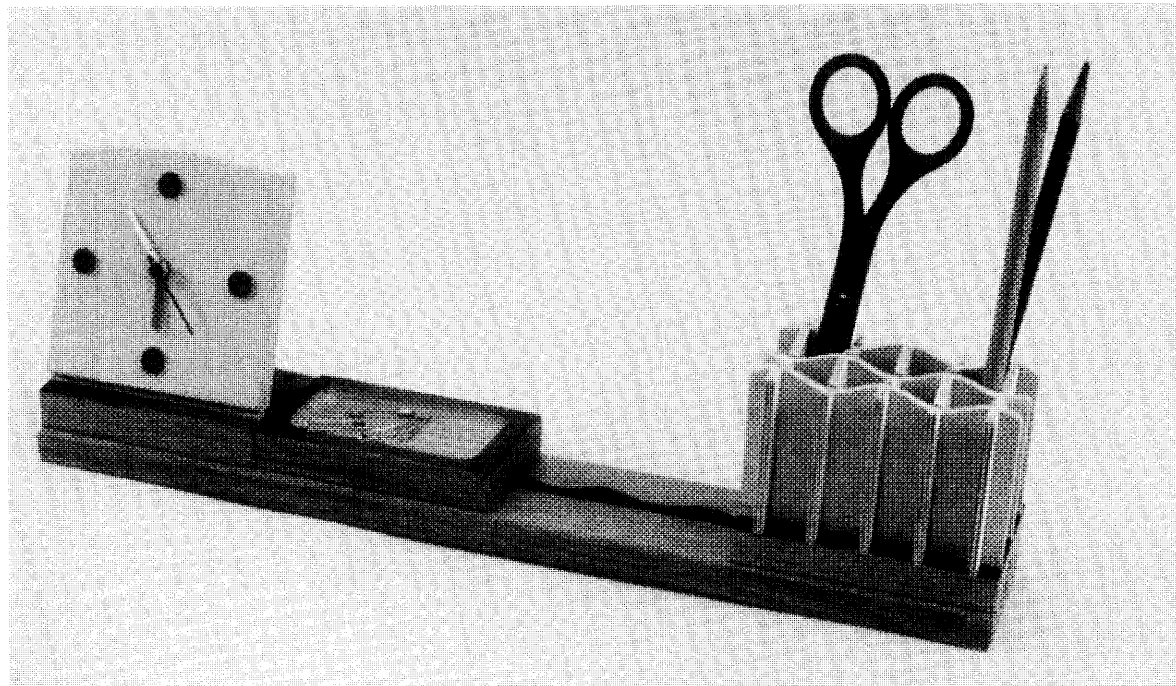
デザイン図面例-1



デザインスケッチ例-1



デザイン組み合わせ例-1



デザイン組み合わせ例-2

3.服飾デザインと着物のリサイクル

- 打ち掛けからウエディング・ドレスへの変容 -

作品名：時空を越えた花嫁と花婿

Theme : Fashion Design and Recycling of Kimono

- Change in appearance from an Uchikake,

Traditional Wedding Kimono in Japan to Wedding Dresses -

Title of Works: a Bride and a Bridegroom beyond the time and space



中国内モンゴル自治区人民政府永久収蔵作品

Photo by 金子スタジオ

●コンセプト：

着物の着用法は形態のみならず素材や模様などによって、着用する場所や場合そして季節などが伝統的に規定されている。着物をリサイクルしてドレスなどの洋服を作ることはこの規定をうち破ることもある。リサイクルするための服飾デザインにとって、素材は単なる自由な素材ではなく、特定の意味や価値が付着したものである。それ故に、それらを内包する要素を考慮した上でデザインする必要がある。着物の再利用は、一枚の着物を着物の約束事から解き放ち、現代の服装文化の中で再生させる作用でもある。つまり、元の着物とは異なる意味と機能を派生させ、新たな価値を創出する営みと位置づけることが出来る。

一般的に着物のリサイクルで用いられている着物は訪問着や留め袖などが多く、それらは普段着や礼装のドレスなどに変容している。しかし、ここでは明らかに礼装として用途が限られている一枚の打ち掛けを、同じ婚礼着ではあるが花嫁と花婿のウエディング・ドレス二着に変容させようということを企画した。

以上のような理由から、打ち掛けの伝統や約束事から解き放たれたウエディング・ドレスの創作を目指すために、テーマは「時空を越えた花嫁と花婿」とした。デザインのコンセプトにおいては、着物がそうであるように、カットラインを単純にして切り捨てる部分なるべくなくすことを目指そうとした。

●デザインワーク：

デザインワークにおいては、リサイクルするという点についてコンセプトでも触れたが、元の打ち掛けを無駄が出ないように有効に使用しようと試みた。そこで、打ち掛けの見頃部分は花嫁の見頃に、そして両袖は花婿の見頃に使用した。残りの部分は、あえて洋服地のサテンやレースを用いて、着物地との対象性を出しながらも、外観的には調和するような素材や色を選んだ。

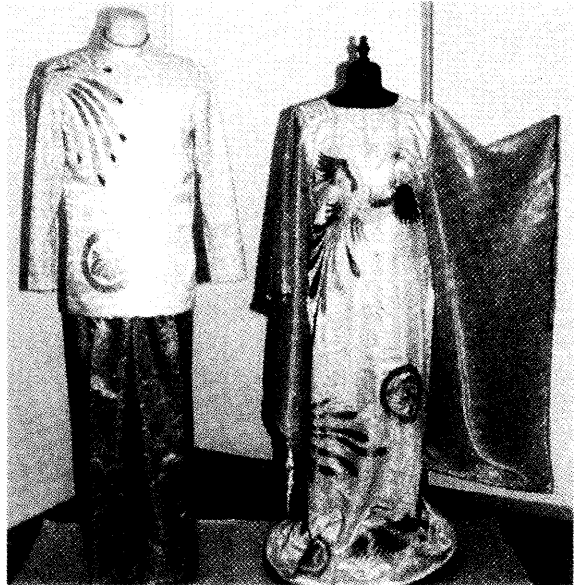
具体的に花嫁衣装においては、素材として選んだ打ち掛けの背面に大胆な鳳凰の模様が刺繍されているので、それをそのままドレスの前面に使用した。実際には立体裁断法によってシルエットを作成し、そこからデザインを完成させる方法をとった。

花嫁の袖は洋服地で着物風にデザインし、袖口を単調に感じさせないよう、その縁に紐装飾を施してアクセントを付けている。やや単純なデザインとなったが、今回は着物のリサイクルを目的とするはじめての試みなので、単純な技法で作るデザインを採用した。

花婿の衣装は前述したように打ち掛けの両袖と衿で見頃を作り、他の部分は着物地とバランスがとれるようなレース地やサテン地を用いている。袖やズボンをやや細身にしたのは、若々しさや現代性を表現するためである。

花婿のズボンや袖にレース地を使用する目的は、一

方では花嫁の衣装の袖と調和させる効果をねらったものである。他方では、現代の若い男性の女性化あるいはやさしさを表現しようとするものである。花嫁のドレスの裾は、打ち掛けのふきのように仕立てることによって、重々しさや強さを表した。花嫁の強さと花婿の弱さという逆さまのイメージをデザインにおいて意図したのは、伝統的に位置づけられてきた男女の役割分担を越えて、現代における錯綜したジェンダーを表現できればと考えたからである。



素材：打ち掛け、レース、テロンオーガンジー、ポリエステルサテン、組み紐、模造真珠



本作品は、中国内モンゴル自治区の首府呼和浩特市において開催された第1回日本文化芸術祭の日本美術展において招待作品として展示された。

会期中は、日本文化芸術祭が現地の報道機関によって連日のように取り上げられており、本作品もテレビで放映された。この展覧会には多くの人々が訪れ、本作品も閲覧された。

会期終了後は、内モンゴル自治区人民政府の永久収蔵作品としての選定を受けた。